

箕輪町第5次振興計画の全体像

第1部 策定にあたって

○計画策定の意義

- 人口減少時代を迎え、私たちは大きな転換点に立っています。
- 町を取り巻く状況の、現状と先行きを十分に捉え、戦略的に取り組むことが必要です。
- また、行政組織はもとより、町民等、様々な主体が目的を共有し、一体となって取り組むことが求められます。
- 本計画は、地域で暮らす皆が、まちづくりの目的・課題を共有し、一体となって取り組むための、まちづくりの『設計図』です。

○計画の構成と期間

基本構想：2016年度から10年間
基本計画：2016年度から10年間
区将来像：2016年度から10年間

○取り巻く社会動向と課題

1 人口減少時代の到来

- 他市町村と異なる出生率の低下
- 転出超過による人口の社会減
- 少子高齢化の進展

2 ライフスタイル・価値観の多様化

- 未婚世帯の増加、家族の多様化
- 働き方の多様化
- 住民ニーズの多様化

3 経済・財政状況の変化

- 税収の減少
- 社会保障費の増大

4 地方分権の推進

- 地方創生の動き

○築き上げた箕輪町の魅力

1 恵まれた地理・地形・気候風土と自然環境

- 美しい景観と、豊かな自然環境
- 大都市への近さ・交通の利便性

2 悠久の歴史文化

- 縄文時代から続く歴史と文化

3 県内トップクラスの人口規模

- 県内の町村で一番多い人口

4 生活を支える産業構造

- ものづくりを中心とした産業

5 住民自治と官民協働

- 15区を初めとした協働の取り組み

6 近年の箕輪町の取り組み

- セ・コミュニティ・ひと味がう子ども育成等先進的な取り組み

○策定方法

- 幅広い分野・年齢層の町民等からなる「みのわ未来委員会」を設置して計画原案を策定
- 協働のまちづくり条例に基づき、町議会での議決により決定

第2部 基本構想

計画期間の2025年までに基本構想の実現を目指します

○箕輪町の将来像

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町 — 人口減少時代への挑戦 “箕輪チャレンジ” —

<第5次振興計画の基本理念>

- これまでの取り組みを振り返りながら、町民が一丸となり、「**みんなで創る**」まちづくりを進めていきます。
- 先人が長年かけて作り上げた暮らしやすさが、「**未来につながる**」まちづくりを進めていきます。
- 人口減少時代となっても、誰もが住みたい町、住み続けたい町であり続けるため、「**暮らしやすい箕輪町**」を実現するまちづくりを進めていきます。

<人口減少時代への挑戦“箕輪チャレンジ”>

箕輪 チャレンジ

■人口減少を想定した初めての総合計画

■町民みんなで心をつなぐ難しい課題にチャレンジ!

チャレンジ目標①

人口減少時代に即した 暮らしへの転換

新たな時代においても
現在の暮らしやすさを維持
◇住民満足度：70%

チャレンジ目標②

将来の暮らしやすさを 守る人口規模の維持

◇人口規模：24,800人以上
◇合計特殊出生率：1.80
◇転入者数：2015年比48人増/年

○目標達成を強力に進める重点プロジェクト

人口減少時代に即した暮らしへの転換

- 「出航!みのわ丸 2025」 町民参画促進チャレンジ
- 「集落再熱!」 集落パワーアップチャレンジ
- 「ありがとう!健康」 健康寿命延伸チャレンジ
- 「行政発新!」 新時代の行政運営チャレンジ
- 「みのわマネーサイクル」 地域内資金循環チャレンジ
- 「8・5・1のスクラム」 教育力向上チャレンジ
- 「世界に誇るセ・コミュニティのまち」 安全・安心チャレンジ
- 「復活!向こう三軒両隣」 地域の絆再生チャレンジ

将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持

- 「幸せのまち“みのわ”」 ハッピーサポートチャレンジ
- 「目指せ!子育てユートピア」 子育て安心チャレンジ
- 「ほどほどの田舎暮らし」 移住・定住促進チャレンジ
- 「地域の足を守れ!」 公共交通活性化チャレンジ
- 「資源と人の循環づくり」 緑のエネルギー活用チャレンジ
- 「我らは農業応援団!」 箕輪の農業応援チャレンジ
- 「Made in Minowa 2025」 商工業活性化チャレンジ
- 「町民みんながセールスマン」 箕輪町知名度向上チャレンジ
- 「好きですみのわ!」 ふるさと愛着応援チャレンジ

第4部 計画の実現に向けて

◆ 内部評価と外部評価

◇ PDCAサイクル

- ◆ 行政の内部評価に加え、みのわ未来委員会(任期3年)による外部評価を実施
- ◇ 計画(P)→行動(Do)→状況把握(Check)→調整・改善(Action)を繰り返す PDCA サイクルを、各施策年度毎に行い進捗を管理

基本構想の共有・町と区が連携してまちづくりに取り組む

基本構想を実現させる基本的な施策

第3部 基本計画

各分野、目的別に整理しています
(■:取り組みの方向性 ○:節(施策をまとめたもの))

第1章 人の「Wa!」が輝くまち

目標 常会加入率

(2015年) (2025年)

71.8% → 80%
以上

- 地域内でのコミュニティの維持
- 新たなコミュニティの構築
- 安全・安心で、快適な暮らしの維持
- 町民と共に進める行政経営

- ①人のつながりと協働のまちづくり
- ②安全・安心の推進
- ③快適な生活環境の整備
- ④理解され信頼される行政経営

第2章 支え合い、健やかに心豊かに暮らせるまち

目標 平均寿命と健康寿命の差

(2010年)

実績値 から 縮小

男性 1.34 歳

女性 2.81 歳

- 誰もが一歩踏み出せる健康づくり
- 安心できる医療体制の構築
- 支え合い、共に暮らせる福祉のまちづくり

- ①地域ぐるみの健康づくり
- ②安心して医療が受けられる医療体制づくり
- ③共に生き、支え合う福祉のまちづくり
- ④障がい者が共に暮らせるまちづくり
- ⑤高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせる体制づくり

第3章 「家族になろう」といえるまち

目標 年少人口/生産年齢人口

(推計値) (2025年)

21.1% → 22.0%
以上

- 出会い、結婚する人を増やす取り組み
- 出産、子育てに希望を持てるようにする取り組み

- ①出会い・結婚の支援
- ②妊娠・出産の支援
- ③育児・子育て支援
- ④地域で支える子育て環境づくり

第4章 産業が輝き、働く場所に恵まれたまち

目標 昼夜間人口比率

(2010年) (2025年)

1.0 → 1.0
以上

- 町民の働く場所の確保
- 人材確保・人材育成による担い手や後継者不足の解消
- これまでに築いた産業の維持・確保
- 地域資源の発掘と活用
- 産業間の連携や新分野開拓による新たな取り組みの展開

- ①雇用の創出と人材の育成
- ②産業の活性化
- ③輝く産業の育成

第5章 住みやすい都市基盤をみんなでつくるまち

目標 住宅新築戸数

(推計値) (2025年)

60戸 → 60戸
以上

- 景観や自然環境の保全・育成と、調和のとれた開発
- 安全性・利便性に配慮した、住民満足度の高い都市基盤整備
- 協働・住民自治による持続可能な都市基盤の維持・管理

- ①景観や自然環境の保全・育成と、調和のとれた開発
- ②安全性・利便性に配慮した、住民満足度の高い都市基盤整備
- ③協働・住民自治による持続可能な都市基盤の維持・管理

第6章 学び合い、共に育てるふるさとのまち

目標 若年者の町内暮らし希望率

(2014年) (2025年)

70% → 70%
以上

- 地域への愛着と誇りを育てる教育の推進
- 自己肯定感をもち、創造的に生きていく教育の推進
- 社会とのつながりをもち、学び続ける教育の推進

- ①地域への愛着と誇りを育てる教育の推進
- ②自己肯定感をもち、創造的に生きていく教育の推進
- ③社会とのつながりをもち、学び続ける教育の推進

第5部 区の将来像

町全体で基本構想等を共有し、まちづくりを推進していくために、15区全てで、将来像を以下により作成し、取り組みます。

- ①地区懇談会による意見聴取
- ②人口の将来予測等の把握
- ③課題整理、取り組みの検討

沢区

歴史と伝統を受け継ぎ、
次世代の若者が育つ 沢

大出区

豊かな自然、肥沃な大地、
恵まれた立地に歴史が息づく 大出

八乙女区

区民の絆が暮らしをつなぐ
心触れ合う 八乙女

下古田区

伝統を育み 子どもも大人も
みんなが輝く 自然豊かな 下古田

上古田区

皆で一緒に楽しもう! 上古田

中原区

やさしさが、
みんなを家族にできる里 中原

松島区

人や地域の個性を尊重し 未来ある
安心と安全の暮らしを創る 松島

木下区

大樹のもとに集い
世代を超えた絆でつながる 木下

富田区

豊かな自然と癒しの風景に
区民が集う 富田

中曽根区

伝統と自然の中で
みんな笑顔に 中曽根

三日町区

活力とふれあいが
明日をつなぐ 三日町

福与区

伊那谷を一望する
ぬくもりの里 福与

長岡区

健やかに暮らせる
自然と歴史に育まれた 長岡

南小河内区

古から伝わる伝統と築き上げた
暮らしやすさを未来につなぐ 南小河内

北小河内区

地域が輝き笑顔あふれる 北小河内